

**製品名: USP16 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19666**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	93kDa

**抗原情報**

遺伝子名	USP16 USP16; MSTP039; Ubiquitin carboxyl-terminal hydrolase 16; Deubiquitinating enzyme 16;
別名	Ubiquitin thioesterase 16; Ubiquitin-processing protease UBP-M; Ubiquitin-specific-processing protease 16
遺伝子 ID	10600.0
SwissProt ID	Q9Y5T5
免疫原	ヒト USP16 の内部領域から得られた合成ペプチド。

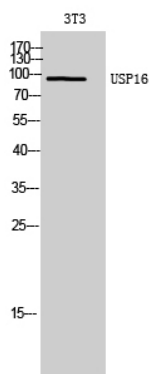
**背景**

この遺伝子は、有糸分裂の開始時にリン酸化され、その後中期 / 後期移行時に脱リン酸化される脱ユビキチン化酵素をコードしています。この酵素は、クロマチンを構成する2つの主要なユビキチン化タンパク質の1つであるH2Aをin vitroで脱ユビキチン化することができ、このタンパク質の変異体は細胞分裂を阻害することが示されています。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが特徴付けられています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ユビキチン C 末端チオエステル + H(2)O = ユビキチン + チオール,疾患: USP16に関連する染色体異常は、慢性骨髄単球性白血病の原因です。RUNX1/AML1との逆位 inv(21)(q21;q22)。,ドメイン: UBP型ジンクフィンガーは、一次構造において3つ目のジンクフィンガー内に包まれた一対の交差ブレースリングフィンガーを形成する3つの亜鉛イオンに結合します。遊離ユビキチンのC末端を認識します。,機能: エピジェネティックな転写抑制の特異的タグであるヒストンH2Aを特異的に脱ユビキチン化することで、コアクチベーターとして作用します。ヒストンH2Aの脱ユビキチン化は、ヒストンH3の「Ser-10」におけるその後のリン酸化の前提条件であり、細胞が有糸分裂に入る際の染色体分離に必要です。ヒストンH2Aの脱ユビキチン化を介してHox遺伝子の発現を制御します。ヌクレオソーム基質を優先します。ヒストンH2Bを脱ユビキチン化しません。 ,PTM: 有糸分裂開始時にリン酸化され、中期/後期移行期に脱リン酸化されます。リン酸化型タンパク質は酵素活性も有します。 ,類似性: ペプチダーゼC19ファミリーに属します。USP16サブファミリーに属します。 ,類似性: UBP型ジンクフィンガーを1つ含みます。 ,サブユニット: ホモテトラマー。 ,組織特異性: 胎児の脳、肺、肝臓、腎臓、成人の心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、膵臓など、検査したすべての組織に存在します。 ,

## 研究分野

細胞生物学; タンパク質分解 / ユビキチン; プロテアソーム / ユビキチン; 脱ユビキチン化; エピジェネティクスと核シグナル伝達; ユビキチンおよびユビキチン様修飾因子

## 画像データ



USP16 ポリクローナル抗体を用いた3T3細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1:20000に希釈した。